

# どうしたらできるかを考える

○：国家試験の最難関「司法試験」の歴史において、文書が書けない「四肢まひ」の人が受験したことはない。前例がないなら、作るしか

ない」音声認識ソフトを使つた記述解答や、体への負担が大きいことから、休憩時間に横になるベッドを持ち込んで試験に臨み、見事に合格を果たす姿は言うまでもない。

○：中学生の頃に抱いていた夢は「医者」。祖父が方に健康分野にも興味があつたこともあり、医療とは違う道の大学に進学した。その後も思いはぶれないまま、

大学受験では上手くいかず、初の挫折。医療と同時に健康に携われる大手食品メーカーに就職。毎日終電

まで時間を使う。当時のテーマは「よく働き、よく学び、よく遊べ」。家は寝るだけ。海老名支店で、休日は終日起きて、時間を使つて、これまでの経験で培つた」と当時を振り返る。

○：34歳のときに事故にあって、車椅子生活を余儀なくされた。社長を目指しましぐらに突き進む自信満々な185cmの長身から、四肢まひで車椅子に乗る135cmの目線になり、世界

医者だつたら、手遅れには一歩。障害者手帳の取得から、済んだかも」との思いで、介助者の手続きなど分かれずに済んだかも」との思いで、介助者の手続きなどを始めた。「逆境のオンラインペード。

から、医者になろうと学業に励んでいた。しかし、するだけでも困難を極め

# 人物風土記

題字は  
内野優市長



●虎ノ門法律経済事務所の支店長弁護士を務める

## 菅原 崇さん

# 逆境乗り越え、人生拓く

## 重度障害の弁護士

以前は大手食品メーカー「明治乳业（現明治）」で理系総合職として商品の研究開発などを任せられ、同社の主力商品「おいしい牛乳」などを生み出した。将来は「社長」を目指して仕事に力を注ぐ一方で、体は海外旅行からスキー、スキーパーフィングなど趣味も全力で取り組む「アケティブ人生」を謳歌していた。しかししながら34歳のとき、突然にして人生を大きく変える事故が起こる。仕

事の合間に夕食を貰いに外出した際、後方から乗用車にはねられ、頸髄を損傷。一命はとりとめたが、首から下が自分の意思ではほとんど動かない体になつた。

弁護士の道へ

死を考えた時もある。それでも「このまま終わるのではなく、将来に治るだろう」。初めてそんな思いだったが、リハビリをしても一向に症状は改善しない。1年に入院生活を送った後、会社復帰を希望したものの叶わず、やむを得ず退職。仕事や趣味など、これまでの生きがいを奪われ、どん

事の合間に夕食を貰いに外出した際、後方から乗用車にはねられ、頸髄を損傷。一命はとりとめたが、首から下が自分の意思ではほとんど動かない体になつた。

死を考えた時もある。それでも「このまま終わるのではなく、将来に治るだろう」と考えていた。そんなある時、食事の席で友人から「首から上が動くんだから弁護士になれば、辛い人の気持ちも分かるし、お前ならできるよ」という「言にそづか。いいね」と返事。人生の道に新たな光が照らし出された。



信頼を置く介助者と菅原さん(手前)